九州初となる
人工巣塔を設置！

コウノトリと小郡

日本のコウノトリ（国特別天然記念物）は、かつて乱獲や樹木の伐採などの影響で、いったんは姿を消してしまいました。しかしその後、人工飼育による繁殖が成功し、近年は全国各地で250羽余りが確認されています。

小郡市では、コウノトリが平成29年に初めて確認されて以降、上岩田の大添ため池を中心に毎年飛来しています。昨年3月には、カップリングが確認された「つがい」が、近隣市の送電鉄塔で数回、営巣（巣作り）を行いました。しかし、電力の安定供給とコウノトリの安全確保のため、巣が出来上がる前に撤去されています。九州では、まだコウノトリの営巣や産卵は確認されていないため、非常に残念なことでした。

こうした背景もあり、コウノトリが安心して暮らすことができる環境づくりをめざして、昨年8月、地元住民や三井植木組合の皆さんを中心に「筑後小郡コウノトリの会」が結成されました。市はこの活動を支援するため、コウノトリの会に対し、補助金30万円を交付しました。

この補助金30万円は、小郡市で初となる株式会社みやざきからの「企業版ふるさと納税」による寄附金を活用しています。

1月14日、コウノトリの会が補助金を活用し、大添ため池そばの個人が所有する土地に、九州初となる人工巣塔1基を設置しました。人工巣塔は、コウノトリが営巣するために設置する塔のことで、高さは10数メートルになります。16日には、巣塔の設置セレモニーが行われ、テレビ局などの報道機関が多数取材に訪れました。巣塔の設置について、筑後小郡コウノトリの会・田中常博会長は「まだスタートに過ぎない。これからも地域の環境保全に取り組んでいきたい。コウノトリには、一日も早く巣作りをしてほしいが、気長に待ちたい」とコメント。

コウノトリは、多様な生き物が住む生態系がなければ、定着も繁殖もできません。コウノトリの飛来は、豊かな自然が保たれていることを示す象徴と言えます。

①

②

③

①コウノトリの会の皆さん
②セレモニーでは、市から株式会社みやざきに対し、感謝状を贈呈
③今年は10数羽のコウノトリを確認